

令和元年度

川村学園女子大学 公開講座

日本再発見

～令和を迎えて～

12:50~14:20	日・曜	14:30~16:00
世界遺産を通してみる 日本の景観と文化 観光文化学科講師 中山 穂孝	11月2日 (土)	わらべうた 一遊戯歌、子守歌、天体気象の歌、 動物植物の歌、歳事歌を探訪して一 日本文化学科教授 尾見 敦子
泡を食べる食文化 一振り茶と抹茶一 生活文化学科講師 築館 香澄	11月9日 (土)	カナダ人が観た能楽 国際英語学科教授 W・キスチャック
前方後円墳の他界観 一埴輪の世界を読み解く一 史学科教授 塩谷 修	11月17日 (日)	皇女と皇后 川村学園女子大学名誉教授 梅村 恵子

【会場】 川村学園女子大学 我孫子キャンパス

【日時】 令和元年11月2日、9日、17日

【申込】 申込不要 無料

【問合せ】 川村学園女子大学事務部

TEL 04-7183-0111

講座内容等は本学ホームページ

「地域・産学連携 公開講座」まで

https://www.kgwu.ac.jp/chiki_sangaku/event_open/

【アクセス】



川村学園女子大学
kawamuragakuenjosidaigaku



講演要旨・講師・著書の紹介

世界遺産を通してみる日本の景観と文化

観光文化学科講師 中山 穂孝



日本には現在22の世界遺産があり、それぞれの世界遺産は、様々な特徴を持っています。また、世界遺産は、観光資源として多くの観光客を集め、地域振興の起爆剤として期待されています。本講座では、皆さんとともに、世界遺産を通して日本特有の景観や文化を再発見できればと考えています。

専門：観光研究（観光歴史学・世界遺産論）

学歴：大阪市立大学大学院文学研究科博士課程

業績：「近代的温泉観光地の形成と都市開発—大分県別府市を事例に一」『人文地理』67-2 2015

わらべうた

日本文化学科教授 尾見 敦子



—遊戯歌、子守歌、天体気象の歌、動物植物の歌、歳事歌を探訪して—

わらべうたは子どもの生活の中にある伝承の歌遊びです。「もう いいかい」と歌うと節が揃うのは日本語の韻律と抑揚の反映です。わらべうたの中には日本語の面白さや音楽構造、子育ての知恵、子どもの遊びの豊かさ、日本人の感性、年中行事の由来などが詰まっています。わらべうたに基づく合唱作品も本学の学生の演奏でお楽しみ下さい。

専門：音楽教育学（子どもの音楽的発達、音楽教育の国際比較研究、合唱指導）

学歴：お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程

業績：「ハンガリーの幼稚園・小学校の音楽教育における伝承の歌遊びの意義」『川村学園女子大学研究紀要』28-2 2017

泡を食べる食文化 —振り茶と抹茶—

生活文化学科講師 築館 香澄



日本の各地には、煮だした番茶等を茶筌で泡立てて飲む「振り茶」が伝承されています。その名前はポテポテ茶（島根県）、ポテ茶（香川県）、バタバタ茶（富山県）、ブクブク茶（沖縄県）と大変珍しいものばかりです。同じく茶筌で泡立てて飲む茶に「抹茶」があります。振り茶はどのようにして飲まれているのか、また国外からも注目されている抹茶の現状について、茶筌や茶碗を比較しながらお話します。

専門：食生活学、食品科学

学歴：大妻女子大学大学院人間文化研究科博士課程

業績：『茶の事典』（共著）朝倉書店 2017

カナダ人が観た能楽

国際英語学科教授 W・キスチャック



川村学園女子大学の科目の1つに、能楽を英語で学ぶ授業があります。その授業では、能舞台、謡曲のあらすじを紹介し、謡曲を英語で読んだり、世阿弥の名著、『風姿花伝』について英語で学んだりしています。今回の講座では日本語で受講者の皆さんと一緒に、能楽について、カナダ人の私と雑談を交えながら学んでいきましょう。

専門：パフォーマンス

学歴：法政大学大学院人文科学研究科修士課程

業績：現在、新作英語ミュージカル執筆中

前方後円墳の他界観 —埴輪の世界を読み解く—

史学科教授 塩谷 修



古墳時代に築造された前方後円墳は、日本独自の形と構造をもつ王墓で、その外観は葺石と埴輪で飾られていました。埴輪はなぜ作られ、古墳に立て並べられたのでしょうか。「楼閣」や「方相氏」などを象徴したと考えられる特徴的な埴輪を紹介し、埴輪が表現した世界を読み解きます。墓であり政治的モニュメントでもある前方後円墳、その築造に伴う儀礼や埴輪の謎に迫り、古墳時代の他界観と中国思想との関係について考察します。

専門：日本考古学（古墳時代）

学歴：國學院大学大学院文学研究科博士課程

業績：『前方後円墳の築造と儀礼』同成社、2014/『霞ヶ浦の古墳時代 内海・交流・王権』高志書院 2018

皇女と皇后

川村学園女子大学名誉教授 梅村 恵子



天皇の交替りを時代の節目ととらえる風潮の中、皇室への関心は一段と高まっています。天皇家の女性“皇女と皇后”をkey wordとして、日本の歴史を読み解きたいと思います。古代では神聖視され重い役割を担った皇女が、時代が下るにつれて異なった視線を受けるようになるのはなぜか。日本社会の変動とあわせて考えます。

専門：日本古代史

学歴：お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程

業績：『家族の古代史—恋愛・結婚・子育て—〈歴史文化ライブラリー227〉』吉川弘文館 2007